

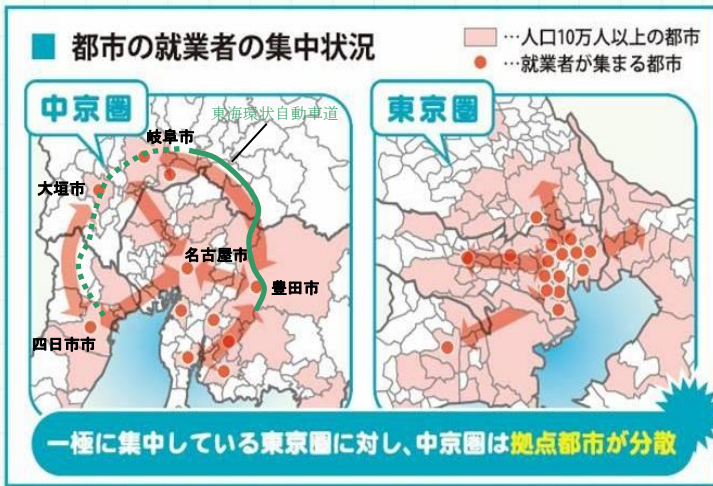
地域の特徴と開通の効果等

東海環状自動車道が結ぶ地域の特徴

- 東海環状自動車道が結ぶ中京圏は、拠点都市が分散している地域です。また、鉄道網の整備密度が低いため自動車への依存度が高い地域で、各都市間を結ぶ環状道路が求められています。
- 中京圏は製造業が盛んな地域で、県境を越えた産業連携プロジェクトが進められています。東海環状自動車道は、沿線地域の自動車による交通アクセスや産業連携をサポートします。

■分散する都市

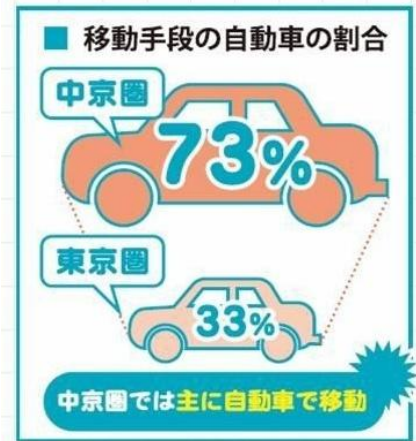
中京圏では一極集中型の東京圏に比べ、拠点都市が分散しています。



資料：平成 17 年国勢調査より作成

■自動車への依存度が高い地域

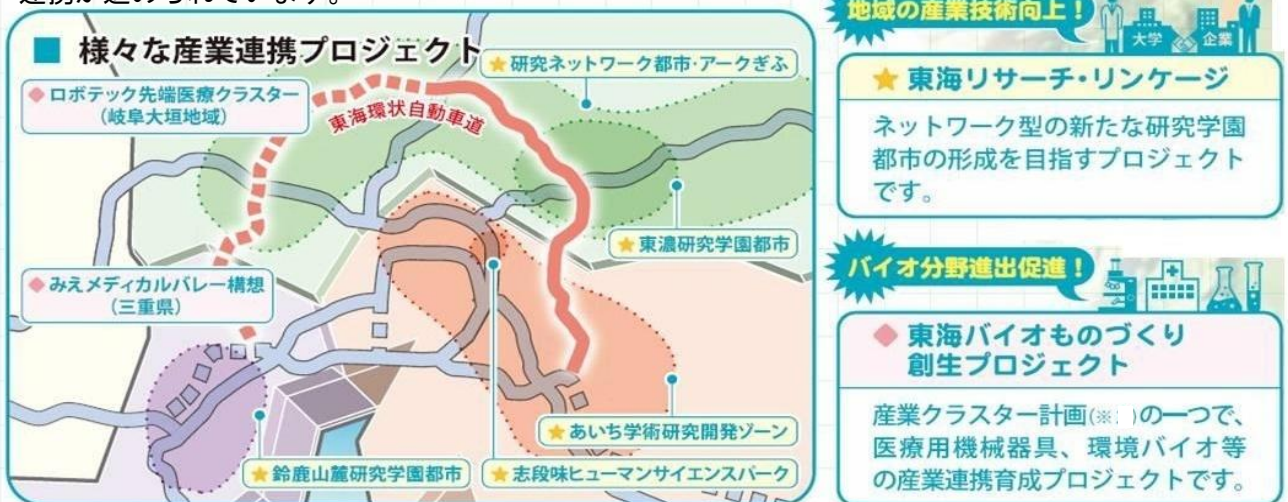
中京圏では、自動車依存度が東京圏と比較して高く、分散した都市間を結ぶ道路が必要とされています。



資料：3大都市圏の利用交通機関分担率（H18年）
[第六十回日本統計年鑑 平成23年]

■県境を越えた産業連携

愛知・岐阜・三重の県境を越えた研究学園都市の連携や、医療用機械器具・環境バイオ等の産業連携が進められています。



資料：東海リサーチ・リンケージ。東海バイオものづくり創生プロジェクトHP

※産業クラスター計画：経済産業省が支援し、地域の中小企業・ベンチャー企業等が大学、研究機関等のシーズを活用して産業集積（産業クラスターを形成し、国の競争力向上を図ること）を目指す計画です。

東海環状自動車道 西回り区間の整備により期待される効果

■東海環状自動車道西回りの整備により、高度救命救急センターへ早く行けるようになり医療サービスが大幅に向上します。また、地震時にも緊急輸送道路の機能を発揮します。

■緊急医療に寄与

岐阜県・三重県内で唯一の高度救命救急センターである岐阜大学医学部附属病院へ早く行けるようになり、医療サービスが大幅に向上します。

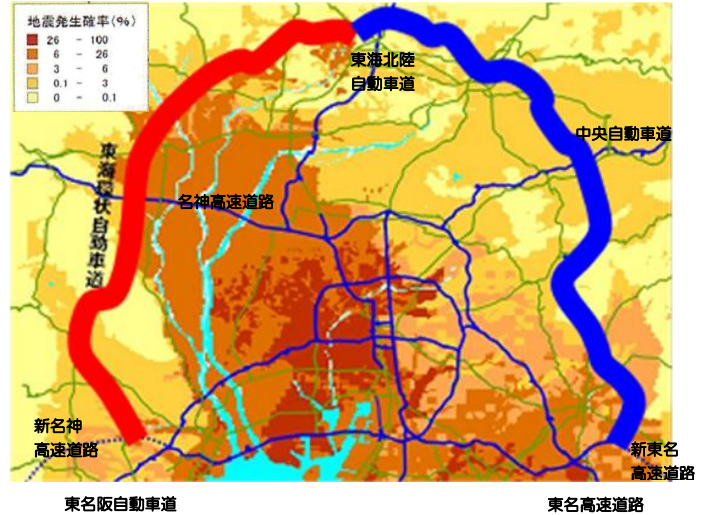


※図中の所要時間は以下により算出しています。
「整備前」の所要時間は、一般国道・県道を利用し実測値(実測値のない区間は3.0km/hと仮定)により算出した物を使用。
「整備後」の所要時間は、東海環状自動車道を利用し、規制速度(70~100km/h)として算出したものに、東海環状自動車道のインターチェンジから市役所までのアクセス道路を3.0km/hと仮定し加算した物を使用。

■災害に強い道路

東海環状自動車道は発生が危惧される大規模地震により強く揺れる地域を迂回しており、緊急時の輸送路として機能を発揮します。

震度6強以上の地震発生確率分布図(東海地震、東南海・南海地震)



出典：(独)防災科学研究所

地盤ハザードステーション 2010年版より作成
図中の濃い色の地域は震度6強以上で揺れる確率の高い地域

東海環状自動車道 大垣西IC~養老JCTの開通による効果

■今回の開通区間周辺には工業団地の整備・計画が進められており、開通により神戸西工業団地等へのアクセスがスムーズになり、地域活性化が期待されています。

